

府養研ニュース

平成18年8月15日発行
大阪府養護教育研究会
会長 河田 安男
(藤井寺市立第三中学校)

今月発行遅
れました。
9月号は9月
7日発行予定
です。

ホームページもご覧ください。 <http://fuyouken.visithp.jp>

来年8月8日は府養研55周年記念大会 <http://fuyouken.visithp.jp/55/>

学校教育法の一部を改正する法律 http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/06040515.htm

問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで jimukyoku@fuyouken.visithp.jp
件名に「府養研問合せ」など「府養研」を入れてください。

平成18年度 府養研役員総会 府養研の支部役員、本部役員の方、日程にご注意を。

第2回平成18年 9月 7日(木) 午後3時～5時 会場はアウイーナ大阪
第3回平成19年 1月11日(木) 午後3時～5時 3階 生駒の間

夏休みの府養研研修一覧 (定員まで受付の詳細はホームページをご覧ください)

8月4日(金) 自閉症教育プロジェクト事例研究会 満員終了 研究部
8月 8日(火) テーマ別研修会 好評にて終了 研修部

8月17日(木)～18日(金) ICT活用プロジェクト連続講座 定員まで受付 研究部
申し込み状況は<http://fuyouken.visithp.jp/kenkyukai/ict06.htm>をご覧ください。

8月24日(木) 実技講習会 午前10時～午後4時 受付終了 研修部
8月25日(金) 施設見学会 たまがわ高等支援学校 午後2時～5時 受付終了 行事部

8月29日(火) LD教育プロジェクト夏期一日研修会 八尾プリズムホール 研究部
二次案内添付をご覧ください 申し込みは不要です

通常学級の先生も参加できます。特別支援教育、生徒指導関係者にもおすすめ下さい。

午前 分科会 4分科会から選べます。(定員あり)

午後 講演「発達障害と二次障害 ー予防法と対処法ー」 講師 小栗正幸 氏
鳥取少年鑑別所長 特別支援教育士スーパーバイザー

自閉症教育プロジェクト事例研究会 満員で関心の高さが感じられました

8月4日、上記事例研究会が豊中市教育センターにおいて開催されました。90数名の参加で会場は満席でした。自閉症の子どもが絵や写真や文字を多用した視覚グッズや環境等の整備工夫、まわりの人間による特性の理解(受け入れ)等により、見通しが立ち、安心感を持って集団の中で生き生きと適応していけることはかなり広く知られてきています。今回、実際のとりくみにおいて、そういったグッズをどううまく活用していくか、またどんなニーズを掘り起こしていくのか、それをどう引き継いでいくのか等について、先進的な学校の報告に自閉症児者への支援のエキスパートからの助言がありました。参加者の関心も高く充実した会でした。(詳細は添付記事)

テーマ別研修会

8月8日、八尾プリズムホールにおいて、全分科会とも好評にて終了いたしました。この研修会は小グループに別れ、現場の悩みや疑問を専門別の講師とひざをつきあわせて話し合うべく始められました。参加人数こそ講演のような分科会もありますが、個々の質問に答えていくその趣旨は今も引き継がれています。参加者の言葉と詳細な報告は来月号にて紹介予定です。

他団体から**1. 第43回 近畿ブロック研究協議会大阪大会 グランキューブ大阪 平成18年8月22日(火)**

<http://www.geocities.jp/kintokuren/> ←当日参加受付あり

テーマ「一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実をめざして」
—豊かに生きる心と力を育む—

主催 近畿特別支援教育連絡協議会 大阪市養護教育研究協議会 全日本特別支援教育研究連盟

2. ムーブメント教育研究会夏期セミナー IN 大阪 平成18年8月26日(土)27日(日)

案内は先月号外でくばっております。府養研HPにも詳細な案内があります。

3. アスペ・エルデの会<http://www.as-japan.jp/>

国際アスペルガー一年記念セミナー 大阪会場のご案内

平成18年8月27日(日) AM9時30分～PM0時 参加予約制。当日、飛び込み参加はできません。詳細は府養研HPの他団体ページ<http://fuyouken.visithp.jp/kenkyukai/tadantai.htm#asupe> をご覧下さい。

4. 高槻自閉症児親の会それぞれの新しい出発記念講演会

2006年9月23日(土) 19:00～21:00 会場：たかつき京都ホテル2階 煌北

高槻市城西町4-39 (JR高槻駅西口下車約700m / 阪急高槻市駅下車約1km)

テーマ：発達障害 講師：石川憲彦さん(東大病院) 参加費：無料

主催：高槻自閉症児親の会それぞれの新しい出発記念講演会実行委員会 後援：高槻市・高槻市教育委員会他

「軽度発達障害」という文言についての本ニュースでの今後のあつかい

従来の養護教育から特別支援教育へとニーズのある子どもたちの範囲がひろがっております。LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群など、その他知的障害を伴わないけれども、学校の中で配慮や支援を必要とする場合があります。これらを総称する意味で「軽度発達障害」という言葉が使われますが、支援の必要さは決して「軽度」とは言えません。そこで、本ニュース上では今後できる限り「軽度」の文字は外していく方向とします。しかしながら、リンクや講師が使用する文言までは変えられません。ご了承下さい。

リンク
紹介

大阪LD親の会 <http://www.normanet.ne.jp/~otahuku/>

アスペ・エルデの会 <http://www.as-japan.jp/>

NPO法人えじそんくらすの会 神奈川eko <http://www.rak1.jp/one/user/eko/>

軽度発達フォーラム <http://www.mdd-forum.net/index.htm>

染色体起因しょうがいじの親の会 FLC <http://www.eve.ne.jp/FLC/>

愛育ねっと <http://www.aiiku.or.jp/aiiku/jigyo/index.htm>

平成18(2006)年8月3日

学 校 長 様
養護教育関係者 様
特別支援教育コーディネーター様

大阪府養護教育研究会
会長 河 田 安 男

大阪府養護教育研究会研究部 LD 教育プロジェクト
夏季1日研修会ご案内
(二次案内)

平素は本研究会に格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。さて、府養研・研究部・LD教育プロジェクトでは、来年度からの特別支援教育本格実施に向けて下記のとおり、1日研修会を行いますのでご案内申し上げます。

今回は法務省所属の心理学者(法務技官)として非行少年の資質鑑別や少年院での矯正教育に情熱をそそいでこられた小栗正幸先生にご講演をして頂きます。発達障害と二次障害について予防法や対処法を豊富な事例をもとに教えて頂ける貴重な機会になると思います。また、大阪府下の地域LD研究会が分担して様々な分科会も行います。

つきましては、貴校の教職員の方々にも是非たくさん参加して頂きますようによろしくお願い致します。

記

1. 日 時 平成18年8月29日(火) 10:00~16:40
9:30~ 午前の受付
10:00~12:30 分科会
12:30~ 昼食
13:30~ 午後の受付
14:00~16:40 講演会
2. 場 所 八尾市文化会館プリズムホール
八尾市光町2-40 Tel 0729-24-5111
近鉄大阪線八尾駅東へ徒歩5分 (駐車は不可)
3. 参加費 無料
4. 申し込み 参加申し込みは要りません。当日会場に直接お越し下さい。ただし、満席となった分科会については他の分科会に参加して頂くことがあります。

5. 内 容

(1) 午前の部 (10:00～12:30)

分科会 1 高槻市障害児教育研究会担当 4階研修室 (定員80名)
「ひらがなのスクリーニングテストの実施について」
「読み書きの指導事例」

分科会 2 和泉 LD・ADHD 研究会担当 4階会議室 2 (定員55名)
「地域に広げる子どもたちの支援
—NPO 法人立ち上げをめざして—」

分科会 3 北河内 LD 研究会担当 5階レセプションホール (定員120名)
伊丹昌一氏による講義「K-ABC 入門編」

分科会 4 堺 LD 研究会担当 4階会議室 1 (定員110名)
山田充氏によるミニ講演「ADHD と学習困難」

(2) 午後の部 (14:00～16:40) 小ホール (定員386名)

講演「発達障害と二次障害 —予防法と対処法—」

講師 小栗正幸 氏

鳥取少年鑑別所長 特別支援教育士スーパーバイザー

6. その他

- ・ ホール内での食事はできません。
- ・ 全体受付は設けません。直接会場にお越し下さい。

7. 問い合わせ先

大阪府養護教育研究会研究部 LD 教育プロジェクト事務局

東大阪市立成和小学校 大山説子 06-6745-2361 (FAX 6745-5490)

大東市立深野中学校 木原 弘 072-879-4891 (FAX 879-4892)

自閉症教育プロジェクト事例研究会

8月4日、上記事例研究会が豊中市教育センターにおいて開催されました。90数名と会場は満員で、参加者の自閉症児者への具体的支援についての関心の高さが感じられました。自閉症の子どもが絵や写真や文字を多用した視覚グッズや環境等の整備工夫（構造化）や、まわりの人間による特性の理解（受け入れ）等により、日々の生活や学習に見通しが立ち、安心感を持って集団の中であっても生き生きと適応していけることはかなり広く知られてきています。今回は、自閉症の子どもへの実際の取り組みにおいて、そういったグッズをどううまく活用していくか、またどんなニーズを掘り起こしていくのか、それをどう引き継いでいくのか等について、高槻市立第九中学校 石井幸子先生、堺市立百舌鳥養護学校 川野広美先生と、東大阪市立成和小学校 高畦真理子先生から報告がありました。そして自閉症児者の支援のエキスパートと言えるアクトおおさか所長 新澤伸子先生と、市立豊中病院小児科医師 松岡太郎先生からの助言がありました。

自閉症の子どもへの不安を取り除く工夫、環境をわかりやすくして自分から動けるようにし、お仕事に取り組めるようにすることや、なかなか難しい性教育やマナーへの取り組みなど、会場から「なるほど」という声がたくさん聞こえてきました。使われているグッズも個々に使いやすくアレンジしてあり、微笑ましい印象がありました。（文責 書記藤岡）

<参加者の感想>

本当にわかりやすく視覚的な指導をなさっていると頭が下がる思いで聞かせていただきました。小中の連携もうまくいっていて、スムーズに中学校生活に馴染んでいっているように感じました。しかし、小学校と中学校では教科制、時間割変更は多々ある等、違いがたくさんあると思いますが、そのあたりも質問すればよかったなと反省しています。絵ももっと利用してみようと思いました。データをとり、こんな時・・・とはわかるのですが、通常学校での周りの生徒の理解が得られなかったり、他の養護学級生徒もいて、なかなかマンツーマンで指導対処できないのが、現実的悩みです。マンツーマンできなくても、できる指導を考えなくてはなりませんよね。

